

# 丸太植栽工 丸太法枠工



間伐材を活用して、  
樹木導入を確実にする  
自然環境との調和、景観保全を

最優先に考えた法面緑化工技術

## 早期防災機能の確立と自然環境との調和をはかる法面緑化工技術へ

従来の法面緑化は、防災機能を早期に実現するため、成長の早い草本植物による高密度急速緑化によって法面の地被効果をあげてきましたが、木本植物の共存しにくい外来草本類主体の植物群落が形成され、その結果、周辺環境との不調和を招いていました。

丸太植栽工や丸太法枠工は、間伐材の利用促進とともに木本植物、花木や飛来植物などによる自然環境との調和や景観保全に配慮した法面緑化が確実にできます。

## 間伐材の利用促進

丸太植栽工	中低木用	100 m <sup>2</sup> 当たり L=0.6m	100 個	(丸太延長 60.0m)	L=3m 丸太	20.0 本
	中高木用	100 m <sup>2</sup> 当たり L=0.6m	30 個	(丸太延長 18.0m)		6.0 本
丸太法枠工	100 m <sup>2</sup> 当たり 1.5m × 1.5m 格子枠の場合			(丸太延長 136.5m)	L=3m 丸太	45.5 本

## 法面の細分化、植栽基盤土壌の安定化

雨水による表面流水や集中流水を分散、流速を低減し表面侵食を防止します。  
凍害による表層の滑落を防止し、植物の育成基盤土壌を確実に保護します。

## 保水性の向上、景観の保全、低コスト化

丸太上部に水を貯え、苗木植栽や播種など導入植物を健全に育てます。  
斜面上での苗木植栽の足場が確保でき、苗木の活着と成長がよくなります。  
自然の素材で環境に調和し、類似二次製品に比べてコスト縮減がはかれます。

## 適用地・・・やせ地、硬質や石礫土壌の道路のり面、治山 etc

法面緑化(植生)工の適用可能な道路のり面や山腹崩壊斜面などを対象とします。  
 やせ地、硬質土壌や石礫箇所などを対象に、植物の生育基盤を吹付で造成するリサイクル緑化  
 P M C 工法など植生基材吹付工の緑化基礎工として効果を発揮します。

## 施工が容易

丸太を布設するための階段切付け作業が不要。  
 法面の起伏を整えた後、間伐丸太を筋状(丸太植栽工)又は格子状(丸太法枠工)に取付け、  
 アンカーピン等で固定するだけで、施工が比較的容易です。



丸太植栽工  
 布設、アンカーピン打込



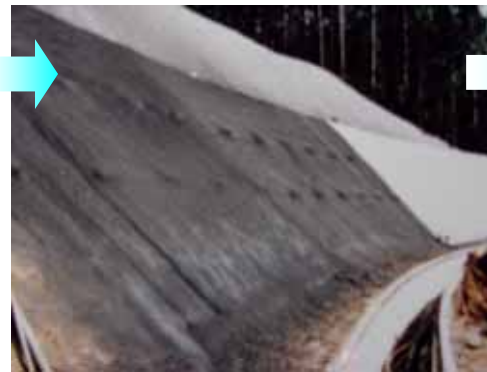
丸太植栽工 L=0.6m/個  
 丸太筋の上部へ植穴



丸太法枠工  
 枠組立、アンカーピン打込



丸太植栽工又は丸太法枠工の斜面間に  
 植物の生育基盤を吹付(P M C 工法)



P M C 工法など  
 植生基材吹付工の施工完了



苗木植栽 丸太植栽工の上部へ  
 緑化木、花木などを植栽

### 施工歩掛

100 m<sup>2</sup>当たり

P M C 工法及び苗木植栽(苗木、植穴掘付、植付)を含みません。

丸太植栽工		3.0 個/10 m <sup>2</sup> 当たり	
名称・規格	数量	単位	
丸太植栽工 L=0.6m/個 両端にアンカー孔付 末口径 6~12 cm (又はロータリー加工品 10 cm)	30.0 0.15	個	m <sup>3</sup>
アンカーピン 16×400 mm	60.0	本	
世話役	0.10	人	
法面工(布設、アンカーピン打ち)	0.30	人	
普通作業員	0.10	人	
計	100.0	m <sup>2</sup>	

丸太法枠工 枠組スパン 1.5m×1.5m			
名称・規格	数量	単位	
横筋 L=3.0m/本 末口径 6~12 cm (又はロータリー加工品 10 cm)	24.5 0.59	本	m <sup>3</sup>
縦筋 L=1.5m/本 末口径 6~12 cm (又はロータリー加工品 10 cm)	42.0 0.54	本	m <sup>3</sup>
アンカーピン 16×400 mm	70.0	本	
カスガイ 9×180 mm	168.0	個	
世話役	1.3	人	
法面工(組立、アンカーピン打ち)	5.4	人	
普通作業員	1.3	人	
計	100.0	m <sup>2</sup>	